

二葉だより

http://www.sumida.ed..jp/futabasho/

平成28年9月30日 No.7 墨田区立二葉小学校

「秋 見付けました」から思うこと

校長 水谷 光一

朝会で「秋を見付けたら、教えてください。」と、話をしました。校長室の前にポストを置いたところ、秋を見つけた子供からのカードがたくさん入っていました。そのいくつかをご紹介します。

『うさぎごやのとなりにひがんばなをみつけました。とてもきれいでした。』うさぎが好きな子なのでしょうか。うさぎを見に行った所で見つけた花を彼岸花だと知っていて、「ああ、きれいだなあ。」と感じ、秋なのだと思えたことが表現されています。

『わたしたちはしんすいこうえんでみずならをみつけました。すごくちいさいみずならでした。(小さなミズナラの実がその紙に貼ってあります)』親水公園でよく遊ぶのでしょう。「ミズナラなんてよく知っているな。」と感心しました。教えてもらったのかもしれませんが、教えてもらったことを実際のものにつなげて、その実は普通の実より小さいと感じたのでしょう。ミズナラの知識を確かなものにします。

『スーパーです。スーパーでサンマのトレーに「今が旬です」と書いてあった。』自然の中でなくて も秋を見付けられます。旬という字が読め、秋にサンマが旬を迎えることも知っていて、スーパ ーで秋を見付けられたと思うのです。他のところでも秋を見付けていくでしょう。

『ペチュニア なつの はなだけどがんばってさいています。(ペチュニアの花の絵と共に、柿の実、黄色い葉などが描かれています。)』今は秋だと言われていて、自分の身の周りにも柿の実や黄色い葉などから秋が感じられる。それなのに、夏を中心に咲く花が咲いている。夏が過ぎても頑張って咲いているその花に、心を寄せているのでしょう。急にすべてが秋に変わるのではなく、季節は徐々に移り変わっていくのだということに気が付いていくのです。*ペチュニアは寒さに弱く、夏を中心に5月から10月頃に咲く花です。

子供たちは日頃から、見たり聞いたりしたことや体験したことから、いろいろなことを感じたり考えたりしています。しかし、そのまま通り過ぎてしまうと、それらはどんどん忘れられてしまいます。感じたこと、考えたことを表現することで、ちょっと立ち止まり、新たに気付くことができます。表現することで思考が深まっていきます。子供の素直な表現には、たくさんの思考が詰まっています。ですから、ノートも大事なものなのです。表現してみて、「あっ、そうなんだ。」と、気付き納得することができます。知識として得たことを生活の中で見付け、具体的なことと照らし合わせることで確かなものにする。そのことで知識は身体に残っていきます。「美しさを感じて分かる」「知識を感じて分かる」「頭と心と体を使って分かる」のです。そして、そこで「分かった。」で終わることなく、「分かった」ことから、また、活動し、考え、感じ、また、新たな気付きを生んでいくというつながりが大事です。

二葉小学校では、思考、言葉、そして、振り返りを大事にして学習を進めるようにしています。子供たちの表現は素敵です。私は、子供たちにまた「もっと秋らしくなってきたことを教えてね。」と伝えました。

1 0月はせんだん(読書)月間です。本を読むと、自分も本の中の登場人物と同じ経験をした気持ちになります。本の中の登場人物との対話もできます。新しい知識に出会い感動することで、興味や意欲がわいてきます。気付きも生まれます。読書は気付きと学びの基を作ってくれます。子供たちが一冊でも多くの本を読んで、本の世界に浸ってほしいなあと思っています。テレビを消して、家族でも読書を楽しみませんか?